

# 彼方小だよい

家庭数配布

富田林市立彼方小学校

令和5年1月号

「あけましておめでとうございます」

校長 藤井 貞彦

久々に行動制限のない年末年始、いかがお過ごしでしたでしょうか。クリスマスにお正月と楽しい行事の続いた冬休みも、あっという間に終わり、3学期が始まりました。校内には子どもたちの元気な声が響き渡り、一気に新学期に突入です。3学期は授業日数が50日余りと短く、スタートからしっかりと取り組まないと、あっという間に過ぎてしまいます。我々もきちんと計画を立てて、1年間の教育活動のまとめに取り組みます。

今学期も変わらぬご支援ご協力をお願いいたします。

「あけましておめでとうございます。」 年が明けると同時にあちらでもこちらでも交わされるあいさつです。ところで年が明けると何がおめでたいのでしょうか？ へそ曲がりな私は一時期、「正月になると、みんな『おめでとう』を連発するけれど、いったい何がめでたいんだ。」なんて罰当たりなことを考えていました。なぜなのか皆さんはご存じですか？ 私もよくわからなかったので調べてみると、有力な説が二つありました。

まず一つ目は「誕生日おめでとう」説です。年齢の数え方が、昔は生まれたときが1歳で、その後1月1日で1つ歳を取るという「数え年」という数え方でした。お正月を迎えると世の中全員が1つ歳を取ったのです。「年が明けて、みなさん無事に1つ歳を重ねられておめでとう。」という意味なんだそうです。

次に二つ目ですが「年神（としがみ）様」説です。日本の古くからの考え方では、ご先祖様は生まれ住んだ地域の山に上って「山の神」として山頂から子孫の暮らしを見守り、春になると山から里に降りて子孫たちの行う米作りを見守る「田の神」に。そして、新年になると「年神」として子孫の家庭を訪れ、各家庭に繁栄をもたらし、見守ってくれるとされていました。無事に年を越して「年神様」をお迎えできるという「おめでとう」なのです。お正月の縁起物「門松」「しめ飾り」「鏡もち」もこの「年神様」に関係しています。「門松」は山から下りてこられる「年神様」への目印として飾ります。家に不浄なものが入らないように「しめ縄」を張って結界を作ります。そして家の中には「年神様」の依り代（居場所）として「鏡もち」を飾るのです。「おせち料理」も本来は「年神様」へのお供え料理で、五穀豊穰・子孫繁栄・家内安全などの願いを込めた縁起物の料理が詰められました。こうして調べてみると、無事に1年を過ごすということが、いかにありがたいことなのかがよくわかりました。

私たちが当たり前に使っている言葉や習慣にも様々な意味があったり、願いが込められていたりします。世の中はすごいスピードで変化しており、どんどん新しく便利になっていきます。そんな中でふと立ち止まり、先人の知恵や願いに思いをはせてみるのもいいのではないのでしょうか。そんな思いも込めて最後にもう一度。

「新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくをお願いいたします。」